

# かわら版

(この資料は全部お読みいただいても60秒です)

## 実家じまいを先延ばしにするとどうなる？

親の住んでいた家が空き家になった後の「実家じまい」。実家じまいを先延ばしにすると、経済的負担や精神的負担が予想以上に大きくなる可能性があります。その理由と具体例を見ていきましょう。

### 事例1 空き家の老朽化による損失

親の他界後、実家を10年以上放置していた男性の場合。売却を考えたときには建物の老朽化が進み使えない状態でした。解体せざるを得ず、予想以上の費用がかかりました。空き家は管理をしないと老朽化により資産価値が大幅に下がる可能性があります。

### 事例2 維持管理費の負担

80代の母親が施設に入った後も実家を放置していた家族の場合。固定資産税や草刈りの費用、簡単な修理など、維持管理の費用が長期間で大きな負担となりました。

### 事例3 タレント松本明子さんの実家じまい

松本明子さんは、亡くなった父親の遺言を守り実家じまいを先送りしていました。しかし、ついに売却を決断し、香川の実家で残置物を整理するのに1週間を要しました。その間、実家に溢れた両親の遺品により寝泊まりが困難となり、近くのスーパー銭湯に宿泊する事態に。累計1800万円もの維持費用がかかったといい、「もっと早く決断していれば…」と後悔を語っています。

実家じまいに悩んでいる方は、以下のステップから始めてみましょう。

- ・ 専門家に相談する
- ・ 家の状態をチェックする
- ・ 計画を立てる